

河合氏の陳述書はウソが多すぎます。

そして今までの敬天ブログの内容は正しいということになります。

陳述書から河合氏のウソと敬天の真実を比べてみます。

## 2. 金田真紀の破産についてでは

敬天には債権者破産申立によって野口真紀が破産者となったとあるのでこれは正しい。

河合氏の陳述書によって破産申立人がアパレル会社の売却先であるという新たな事実がわかっただけである。

河合氏は金田が代表を務める複数の会社に手数料を支払っているとあるが何故複数に分けたのか。宅建免許の無い会社に仲介手数料を支払ったということか。

別の視点で見ると、破産になることを知っていたからこのように複数の会社に分けて手数料を支払った可能性も出てくる。

また、破産を認識した後も取引を続けていたことが明らかとなった。

金田が代表をしている会社はリアム、リアムインク、リアンクホールディングス、青山ゼストワンである。青山ゼストワンに手数料を支払っていたら問題である。

理由としてUR南青山の件で金田は勝手に代表者となって仮処分を勝手に抹消してしまい刑事事件にまで発展しているからである。このスキームは河合氏も知っていたはずである。また、リアムに支払っていれば破産した会社に支払っていることになる。なお代々木駅前の債権はリアムインクに譲渡されている。麻布台パークハウスはリアムホールディングスの名義となっていて疑わしき抵当権は破産決定後に設定されている。

金田との関係は仕事のみと述べているが、河合氏の愛人である銀座のホステスSさんとの会食や身の上相談までしている仲である。河合氏の陳述にはウソがある。何ならこのSさんを法廷の場に引きずり出せばいいのである。

## 3. 南青山三丁目の取引についてでは

河合氏と金田を引き合わせた人物として大原氏の名前が挙がっているが敬天に書かれていた通りである。

脱法的な取引や反社への金の流れ、あるいはK S Gを含め単なる仲介だけを金田に行わせていただけでは無い。全ての事実を金田に握られているのだ。

手数料12億円というのは間違っていたかも知れないがこの金額の多寡は問題ではない。

六本木富士ビルや湖雲寺土地等でも手数料を支払っている事は認めている。今回は金田が高額の手数料を受け取っているながらどうして破産したのかが問われているのだ。

## 4. ランディック六本木についてでは

ここに本当のウソがある。取引があったという事実は敬天記載のとおりである。現在確かな証拠を集めている最中である。

5.六本木富士ビルについてでは

知らなかった事実が記載されていた。金田の破産後に取引を行い手数料を支払っていたという事実だ。ここに金田と河合の癒着があるのでは。愛人にまで引き合わせているのだから金田を排除できないのだろう。

6.ソフトウェア工業についてでは

この問題の本質はヤクザ紛いの乗っ取りを行ったことにある。スポンサーとして名乗りを上げていながら破産申立とは。金田の破産とそっくり同じである。

なおこのソフトウェア工業と南青山三丁目のスキームを考えたのは元TMI法律事務所の野村（白井）弁護士であり実行したのはPAG河合である。

ここは河合氏にハッキリさせてもらおう。また、この野村（白井）と金田は何度も会っている。PAGの内部情報を河合氏は全て金田に話しており、南青山三丁目をすべて金田に行かせていた。

7. 湖雲寺土地についてでは

この内容は利益相反を自ら認めている。ライフ堂やスーパー玉出も憤慨するであろう。

8.おわりでは

これだけの虚偽がある陳述書を出しておいて事実無根の作り話と締めるのだから呆れた。